

国語プリント No. ()

()

年 組 番 名前

配布日 月 日 曜

羅生門 下人の成長 論文の書き方

目標は全員が下人がいつ、なぜ、どのようにして 大人 になったのか？理解することである。授業を通して説明していたが、答えは一つではない。テキスト（本文）をもとにした根拠をあげて論ずれば、「答え」は無数にあると言ってもいい。

だから「全員が理解する」ということは、「全員が同じ答えになる」という意味ではない。

ただし、「答え」が A・B 2 つ上がったとき、A を選んだ人は、「B はなぜ違うのか。」ということが言えなければ、「A が答えだ」とは言えない。その逆も同じである。これが《反論》というものだ。この《反論》を受けて、自分が「答え」だと考えるその根拠を通せるかどうかでその考えが確かなものかどうかが決まる。

同じ「答え」でも、根拠が確かかどうかで理解しているかどうかが変わる。プリントや論文を写しても、理解していなければ全く意味はないということになる。

全員が理解して論文を書けるように学び合おう。

課題

次のフォーマットで論文を作成する。「」には数字を入れ、「()」の中はそこに書く内容の説明である。文末表現、文章のつながりはアレンジして、自然な日本語にすること。

「文章講座」の 4 枚のプリントに従って、「フォーマルな書き言葉」にすること。

ノート 1 頁に 5 つ以上のチェックがあった場合、全文書き直しになるので、注意すること。

『羅生門』の「下人」は、 頁 行目の「」 (一文を抜き出す《文 A》)

。「」のところで 大人 に成長した。その理由を次に説明する。

「下人」は始め「」。「と
いう「問い」を持っていた。しかし、先に述べた 頁 行目で下人は「

(下人は何に気づいたのかを記す。)

「に気づいた。よって、「下人」の
始めの「問い」は (下人の「問い」

がどう変化したかを記す) になっ

た。なぜなら、「老婆」が (大

人 になっ たきつかけと「老婆」の関連を記す。)

からである。

大人 になったということとは、それ以前は 子供 ということになる。

たとえば、二文前の 頁 行目の

「」 (《文 A》の二文前の一文を抜き出す) 「という文では、

(下人がそのときはまだ 子供 であるという理由を記す。)

こは 子供 ということが分かる。また、二文あとの 頁 行目の「

(《文 A》の二文あとの一文を抜き出す)

「という文では、

(下人

がそのときにはもう 大人 になっているという理由を記す。)

大人 ということが分かる。

以上のことより、 頁 行目の

「」 (一文を抜き出す《文 A》)

。「」が下人が 大人 になった人生の転機である。